



第2期 (R6~R15)

肝属中部地域畑地かんがい営農ビジョン



～ 台地に畑かん・潤う農業 ～

令和6年6月

肝属中部地域畑地かんがい営農推進本部

はじめに

肝属地域は、耕地面積の68.1%が畑地を占める県内有数の畑作農業地帯であり、年平均気温17.3℃、年間降水量2,351mmと温暖な気候を活かした、さつまいもや畜産を基幹とした営農が展開されています。

しかしながら、降雨のほとんどが浸透するシラス台地という特殊土壌地帯であるため、農作物は干ばつに強い作物に限られるなど不安定な農業を強いられてきました。

このため、肝属地域では、全国における国営畑地かんがい事業第1号地区として実施された笠野原地区や肝属南部地区にて畑かん施設が整備され、平成9年度からは、肝属中部地区内（鹿屋市、肝付町）において、大規模畑地かんがい事業がスタートし、荒瀬ダム completion を経て、平成30年度より本格的通水が始まり、令和11年度には全面通水が見込まれています。

そこで、肝属中部地区の畑かん通水を契機に、天候に左右されず計画的かつ安定した農業生産や高収益作物の導入により、更なる農業発展を図っていく必要があることから、水利用による営農の基本目標を明らかにし、水利用により誰がどのような農作物を栽培し、どのような経営を目指すかなど、将来の水利用による営農活動の指針として平成26年3月に「肝属中部地域畑地かんがい営農ビジョン」を策定し、その振興目標に向けて取り組み、策定後10年を経過したところです。

今回、第1期営農ビジョンの取組を継承しつつ、農業・農村を取り巻く環境の変化に対応するため、将来の水利用と営農活動の方向性を示した「第2期肝属中部地域畑地かんがい営農ビジョン」を新たに策定しました。

この営農ビジョンに基づき、整備が進んでいる畑地かんがいの「水」を活用した収益性の高い安定した畑作営農の実現に向けて、関係機関・団体及び受益農家が一体となり取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

肝属中部地域畑地かんがい営農推進本部
会 長 中 西 茂
(鹿屋市長)

目 次

第Ⅰ章	第2期営農ビジョンの策定にあたって	1
	1 策定の趣旨	
	2 性格と役割	
	3 策定主体	
	4 計画期間	
第Ⅱ章	肝属中部地域営農の現状と課題	3
	1 畑地かんがい施設の整備状況	
	2 肝属中部地域農業の現状	
	3 畑かん受益地を担うモデル農家の育成状況	
	4 肝属中部地域畑かん営農の抱える課題	
第Ⅲ章	肝属中部地域畑かん営農の振興方向	12
	1 畑かん営農への理解促進	
	2 肝属中部地域を支える担い手の育成	
	3 畑かんを活用した多様な産地の育成	
第Ⅳ章	具体的な推進方策	14
	1 畑かん営農への理解促進	
	2 肝属中部地域を支える担い手の育成	
	3 畑かんを活用した多様な産地の育成	
第Ⅴ章	第2期営農ビジョンの目標	18
	1 推進品目の生産目標	
	2 さつまいもの後作野菜利用	
第Ⅵ章	市町別畑かん営農の将来方向	19
	1 鹿屋市（鹿屋）	
	2 鹿屋市（吾平町）	
	3 肝付町	

第 I 章 第 2 期営農ビジョンの策定にあたって

1 策定の趣旨

肝属中部地域においては、畑地かんがい施設の整備が着実に進められており、水利用による計画的な作付けや安定的な生産活動の推進のための指針として平成 26 年 3 月に「肝属中部地域畑地かんがい営農ビジョン（以下、第 1 期営農ビジョン）」を策定し、取り組んできたところです。

このような中、農家の高齢化や後継者不足、サツマイモ基腐病などの病害虫の発生、燃油や肥料等生産資材の価格高騰など、農業・農村を取り巻く課題は山積しています。

このため、第 1 期営農ビジョンの取組を継承しつつ、将来の水利用と営農活動の方向性を示した「第 2 期肝属中部地域畑地かんがい営農ビジョン（以下、「第 2 期営農ビジョン」という）」を新たに策定し、受益農家と関係機関・団体が一体となって畑かん営農を構築していきます。

2 性格と役割

- (1) この営農ビジョンは、畑かんを活用した営農活動の方向性と、受益地でどのような農業を目指していくかなどを示したものです。
- (2) この営農ビジョンは、受益農家と関係機関・団体にとって、将来の畑かん営農構築のための指針となるものです。

3 策定主体

肝属中部地域畑地かんがい営農推進本部（平成 12 年 5 月設置）

鹿屋市，肝付町

鹿屋市議会，肝付町議会

鹿屋市農業委員会，肝付町農業委員会

鹿児島きもつき農業協同組合，肝付吾平町農業協同組合

肝属中部土地改良区

鹿児島県大隅地域振興局農林水産部

4 計画期間

第2期営農ビジョンについては、第1期営農ビジョンの目標年度（令和5年度）到達に伴い見直しを行ったことから、10年後の令和15年度を目標年度とします。

なお、目標達成状況や社会情勢の変化を考慮し、計画期間内に見直しを行うことがあります。

○ 通水時期と営農ビジョン策定・目標年度

	通水時期		計画期間	
	一部通水開始	全面通水	策定年度	目標年度
第1期営農ビジョン	平成30年度		平成25年度	令和5年度
第2期営農ビジョン		令和11年度	令和6年度	令和15年度

※ 通水時期は、令和6年3月時点での計画

※ 全面通水とは、給水栓の有無に関わらず水利用整備を完了したものの。



荒瀬ダム
（平成25年11月時点）



荒瀬ダム
（現在）

○ 関係市町別受益面積

市町名	受益面積 (ha)
鹿屋市鹿屋	594
鹿屋市吾平町	421
肝付町	522
合計	1,537

※令和6年3月末現在

第Ⅱ章 肝属中部地域営農の現状と課題

1 畑地かんがい施設の整備状況

肝属中部地区では、平成9年から大規模畑地かんがい事業がスタートし、平成29年には荒瀬ダムが完成し、平成30年6月から通水が開始され、令和11年度には全面通水が見込まれています。

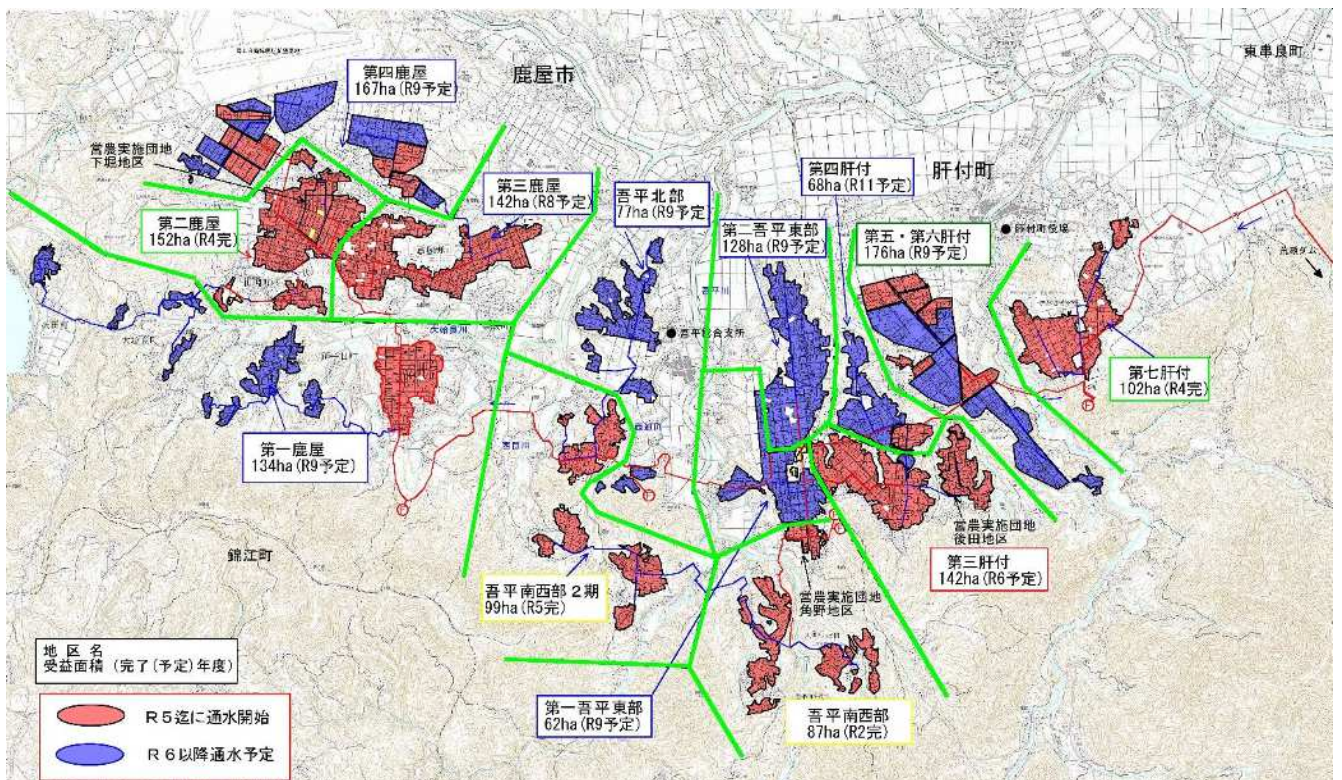
また、ほ場整備と併せて農地の集積や大区画化が図られるとともに、農道や排水路の整備も進められてきており、認定農業者や農業法人等の担い手が規模拡大しやすい総合的な生産基盤の整備が取り組まれています。

○ 肝属中部地区の畑かん事業実績と計画

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R15	
国営事業						ダム完成	完了 R2.3												
県営事業					通水開始 H30.6 (通水式 7.21)	完了 全面通水													
営農ビジョン	第1期										第2期								
配管面積			276	415	534	642	733	835	906	1,009	1,039	1,138	1,237	1,336	1,435	1,537	1,537	1,537	
通水率			-	-	35	42	48	54	59	66	68	74	80	87	93	100	100	100	

※ 配管面積：給水栓取付管までの設置面積

※ 通水率：配管面積 / 受益面積 (1,537ha)



2 肝属中部地域農業の現状

(1) 農家構造の変化

全国的に農家数が減少する中、肝属中部地域においても同様な傾向が見られており、特に平成27年から令和2年までの5年間で、基幹的農業従事者が4割減少しています。

また、認定農業者数については、法人経営体の増加により一定の水準を維持しているものの、今後、後継者不足や高齢化等により減少することが懸念されています。

○ 基幹的農業従事者数の推移

(単位：人，%)

市町名	H22			H27			R2		
	全体 人数	65才以上		全体 人数	65才以上		全体 人数	65才以上	
		人数	割合		人数	割合		人数	割合
鹿屋市	4,896	3,083	63.0	3,285	2,466	75.1	1,968	1,228	62.4
肝付町	1,158	797	68.8	984	673	68.4	586	406	69.3
合計	6,054	3,880	64.1	4,269	3,139	73.5	2,554	1,634	64.0

(出典：農業センサス，農林業センサス)

○ 農家数の推移

(単位：戸，%)

市町名	農家数	H22		H27		R2		R2/H22
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	
鹿屋市	総農家数	5,318		4,115		1,982		37
	販売農家	3,289	62	2,419	59	1,322	67	40
	自給的農家	2,029	38	1,696	41	660	33	33
肝付町	総農家数	1,810		1,256		868		48
	販売農家	917	51	667	53	448	52	49
	自給的農家	893	49	589	47	420	48	47
合計	総農家数	7,128		5,371		2,850		40
	販売農家	4,206	59	3,086	57	1,770	62	42
	自給的農家	2,922	41	2,285	43	1,080	38	37

(出典：農業センサス，農林業センサス)

○ 認定農業者数の推移

(単位：人)

市町名	項目	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
鹿屋市	認定農業者	659	668	651	659	649	643	644	647	653	649	624
	個人	556	562	547	554	542	532	527	526	527	522	499
	法人	103	106	104	105	107	111	117	121	126	127	125
肝付町	認定農業者	134	130	136	132	147	139	140	133	135	133	126
	個人	120	111	114	109	123	115	117	107	109	108	106
	法人	14	19	22	23	24	24	23	26	26	25	20
合計	認定農業者	793	798	787	791	796	782	784	780	788	782	750
	個人	676	673	661	663	665	647	644	633	636	630	605
	法人	117	125	126	128	131	135	140	147	152	152	145

(出典：大隅地域の農業)

(2) 農業生産の現状

作付面積については、さつまいもや飼料作物が大半を占めて推移してきていますが、さつまいもについては、高齢化による農家数減少や平成30年に発生したサツマイモ基腐病の影響などから減少傾向にあります。

また、さつまいも等との輪作品目については、だいこんが103ha、ばれいしょが38ha、ごぼうが38haとなっており、今後、需要が見込まれるばれいしょやごぼう等の面積拡大が期待されています。

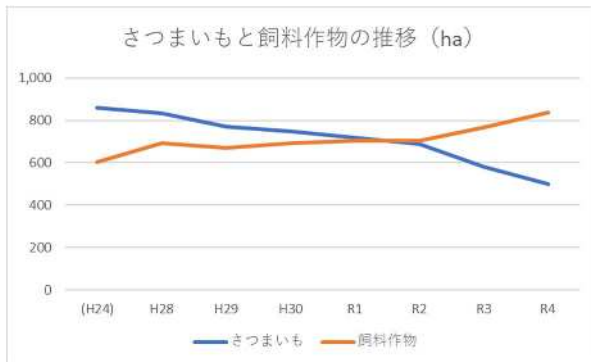
○ 畑かん事業受益地区内の作付状況

(単位：ha)

品目名	H30	R1	R2	R3	R4
さつまいも	748	720	690	600	498
野菜	271	231	222	212	332
ごぼう	17	20	26	20	38
ばれいしょ	5	1	1	4	38
だいこん	110	80	78	83	103
にんじん	17	19	21	14	24
ブロッコリー	2	2	1	3	7
かぼちゃ	2	5	3	2	5
ねぎ	18	13	11	9	8
キャベツ	3	1	2	1	1
さといも	6	8	4	5	7
ピーマン	27	23	20	18	18
いんげん	2	2	7	1	2
その他野菜	62	57	48	52	81

品目名	H30	R1	R2	R3	R4
花き	9	9	10	12	8
果樹	9	9	9	22	16
茶	15	15	15	14	16
その他	84	72	63	65	65
飼料作物	694	703	706	767	839
(春夏)	323	348	339	396	464
(秋冬)	371	355	367	370	375
合 計	1,830	1,759	1,715	1,692	1,774
受益面積	1,537	1,537	1,537	1,537	1,537

※ 作付け面積は地籍面積によるため、施設畑等の面積とは異なる。



3 畑かん受益地を担うモデル農家の育成状況

(1) さつまいも＋露地野菜（例）

畑かん施設の整備は着実に進み、水利用による計画的な作付けや安定的な生産活動が可能となりつつあります。このような中、受益農家と関係機関・団体が一体となって1期ビジョンに取り組み、肝属中部地域には次のような担い手が育成されています。必要な水利用と併せて、土地利用型の栽培体系により経営を安定させており、また、土地集約型の営農においても、品質と収量の向上が図られています。

2期ビジョンでは、これらの経営体をモデルとして水利用の普及と経営体の育成を目標とします。

営農類型		さつまいも+露地野菜（法人） ※ 鹿屋地区											
経営の特徴													
<ul style="list-style-type: none"> ●春夏作の「さつまいも」を主体に、秋冬作の「ごぼう」や「にんじん」、「だいこん」を組み合わせた輪作体系 ●平成19年に経営面積20haで法人化し、現在の30haまで拡大 ●畑地かんがいの整備が進むとともに、秋冬作の「だいこん」や「にんじん」等の面積を拡大 ●水利用により、「さつまいも」の活着や野菜の発芽が促進され、品質・収量が向上 													
品目名	面積	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さつまいも （焼酎用）	14.0ha	○		かん水			○						
ごぼう	6.0ha				■				○	かん水	○		■
にんじん	6.0ha				■				○	かん水	○		■
だいこん	4.0ha		○		■					○		かん水	■
○ 経営の概要												○ は種・育苗	
経営形態 法人経営（主たる従事者 3人，臨時雇用 8人）												◎ 定植	
												■ 収穫	
○ 経営規模・作付体系						○ 主な施設・機械							
延べ作付面積		30.0ha				育苗ハウス		2,000㎡					
（実面積）		25.0ha)				トラクター		2台					
さつまいも		14.0ha				ディスクハロー		1台					
ごぼう		6.0ha				パワーハロー		1台					
にんじん		6.0ha				ハーベスター		4台					
だいこん		4.0ha											



営農類型		さつまいも+露地野菜（個人） ※ 吾平地区											
経営の特徴													
<ul style="list-style-type: none"> ●春夏作の「さつまいも」を主体に、秋冬作の「ごぼう」や「ばれいしょ」を組み合わせた輪作体系 ●平成24年にUターンで親の経営を継承し、現在の6.5haまで拡大 ●動噴によるかん水作業を、ロールカーによる自動散水に取り組むことで労働力を削減 ●水利用により、「さつまいも」の活着や「ごぼう」の発芽が促進され、品質・収量が向上 													
品目名	面積	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さつまいも （焼酎用）	4.0ha	○		かん水			○						
ばれいしょ	1.5ha	かん水 ◎	◎			■	■			かん水 ◎	◎		
ごぼう	1.0ha		■	■						かん水 ○	○		
○ 経営の概要												○ は種・育苗	
経営形態 個人経営（主たる従事者 2人，臨時雇用 2人）												◎ 定植	
												■ 収穫	
○ 経営規模・作付体系						○ 主な施設・機械							
延べ作付面積 6.5ha						育苗ハウス 1,000㎡							
（実面積 6.5ha）						トラクター 3台							
さつまいも 4.0ha						ポテトハーベスター 1台							
ばれいしょ 1.5ha						エイブルプランタ 1台							
ごぼう 1.0ha						ごぼう播種機 1台							

営農類型		施設ピーマン（個人） ※ 肝付地区													
経営の特徴															
<ul style="list-style-type: none"> ●促成ピーマン専作 ●県経済連トレーニングセンターで研修後、平成28年に就農 ●畑かん水を活用したアルコール土壤還元消毒を実施 ●こまめな温度管理やムラを抑えたドリップかん水に取り組み、品質・収量を安定化 ●生産量は就農直後の12t/10aから、現在は18t/10aまで増加 															
品目名	面積	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
ピーマン	22.0a			かん水			○		かん水 ○	◎		かん水	■		
							緑肥		←→ 土壤還元消毒						
○ 経営の概要												○ は種・育苗			
経営形態 個人経営（主たる従事者 2人，臨時雇用 5人）												◎ 定植			
												■ 収穫			
○ 経営規模・作付体系						○ 主な施設・機械									
延べ作付面積 22.0a						ビニールハウス 2,200㎡									
ピーマン 22.0a						トラクター 1台									
						ヒートポンプ 6台									
						管理機 1台									
						動力噴霧機 1台									

4 肝属中部地域畑かん営農の抱える課題

(1) 地域の農業を支える担い手を育成する必要がある。

肝属中部地域で農地を所有もしくは耕作している農業者は 3,290 戸となっていますが、利用権を設定して営農を展開している個人経営体と法人については約 2 割の 630 戸となっており、残りの約 8 割を自作地のみ農業者が占めています。

また、令和 12 年までの基幹的農業従事者数については 400 人程度まで減少することが予想されています。

○ 肝属中部地域の担い手と自給的農家及び農地所有者（令和 4 年度現在）

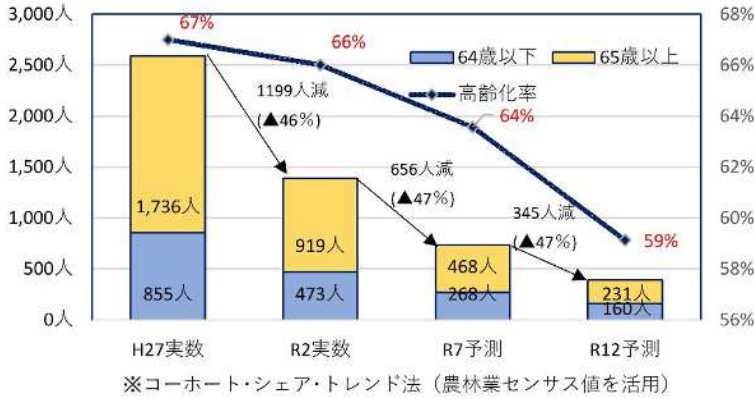
（単位：戸）

		担い手				自給的農家及び農地所有者			合計
		法人	個人経営体 （利用権を設定している）			者 （自作地のみ経営）			
			65才未満	65才以上	合計	65才未満	65才以上	合計	
鹿屋市	旧鹿屋市	25	62	152	214	172	957	1,129	1,368
	旧吾平町	8	59	89	148	86	443	529	685
	旧串良町	3	1	3	4	14	8	22	29
	旧輝北町	0	0	0	0	0	0	0	0
肝付町	旧高山町	13	60	117	177	93	415	508	698
	旧内之浦町	0	0	1	1	0	0	0	1
東串良町		1	0	2	2	4	3	7	10
大崎町		1	1	1	2	1	2	3	6
志布志市		1	2	1	3	0	1	1	5
その他地域		5	6	16	22	109	352	461	488
合計		57	191	382	573	479	2,181	2,660	3,290
シェア（%）		2	6	12	17	15	66	81	100

※ 肝属中部土地改良区の集計による。

※ 被相続地については納税管理人等を所有者として特定している。

◆ 基幹的農業従事者数と高齢化率
(旧鹿屋市+旧吾平町+旧高山町)

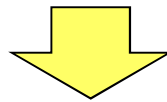


- 基幹的農業従事者は、5年間で46% (1,199人、240人/年) 減少
- 全国では、22% (39.4万人) 減少
- 5年後、10年後に47%ずつ減少し、今後10年間で72% (1,001人) 減少

このため、10年後の令和14年には、93戸の担い手 (法人及び65才未満の個人経営体) が経営面積を約5.6倍に拡大し、受益地の80%にあたる約1,240haの農地をカバーする必要があります。

R4 現況	法人	個人経営体 (利用権を設定している)	自給的農家及び農地所有者 (自作地のみ)	受益地 1,560ha
	148ha/ 28法人 ※1	65才未満 212ha/191戸	65才以上 212ha/382戸	65才未満 280ha/479戸

※1 農地の利用実績がある法人のみ



10年後

R14 予測	法人	個人経営体 (利用権を設定している)	耕作者不在農地	自給的農家及び農地所有者 (自作地のみ)	受益地 1,560ha
	148ha/ 28法人	65才未満 72ha / 65戸	65才以上 57ha / 95戸	耕作者不在農地が 1,019ha 発生する見込	65才未満 98ha/163戸

※2 コーホート・シェア・トレンド法による減少率により推計



担い手 (法人及び65才未満の個人経営体) が農地をカバーするとなると・・・

経営拡大	法人	個人経営体 (利用権を設定している)	自給的農家及び農地所有者 (自作地のみ)	受益地 1,560ha
	838ha/28法人 <29.9ha/法人>	65才未満 404ha/65戸 <6.2ha/戸>	65才以上 57ha/95戸	65才未満 98ha/163戸

5.6倍の経営拡大
1,240ha

畑かんを活用した産地形成や地域の活性化を進めるため、継続的に新規就農者の確保・定着を図るとともに、効率的かつ安定的な農業経営を目指す認定農業者、農業法人を育成する必要があります。

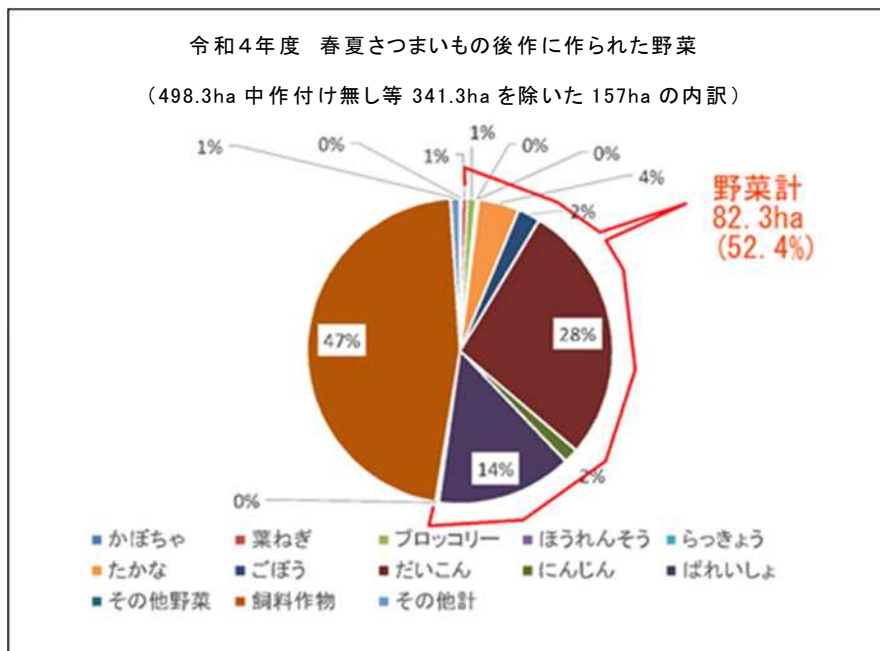
農道の舗装や排水路が未整備など貸付け条件が悪い農地は利用されづらく、これまで農家が守り続けてきた農地を次の世代に引き継げないことが懸念されることから、県営事業による道排水路整備等と併せて、各地域毎に策定される「地域計画」に沿った農地集積・集約化を推進し、地域の農地の積極的な活用と持続的な産地づくりに関係機関が連携して取り組む必要があります。

(2) 水利用効果の高い作物の推進と受益者の畑かんに対する理解促進を図る必要がある。

水を必要とする露地野菜や施設園芸などの導入と産地拡大を図るとともに、作付け面積の大半を占めるさつまいもや飼料作物に対する水利用の理解と推進を図り、さらには後作の露地野菜等での水利用や輪作体系を推進することにより、生産性の高い畑かん営農を実現する必要があります。

このため、関係機関等が連携し、受益農家に対して、あらゆる機会を捉えて畑かんに関する情報提供を行い、水利用に対する理解促進を図る必要があります。

○ 令和4年度春夏作のさつまいもの後作状況



第三章 肝属中部地域畑かん営農の振興方向

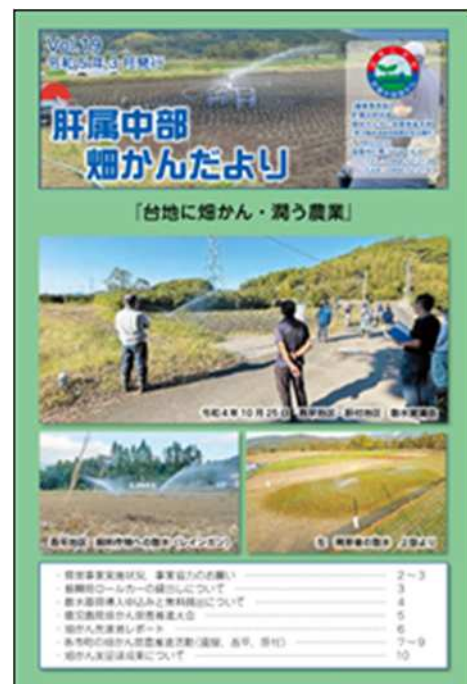
1 畑かん営農への理解促進

畑かん施設の整備に伴い、水利用による営農の普及・拡大を図るため、畑かんマイスターと連携し、推進品目の展示や散水器具実演会等を通じて、受益者の水利用に対する理解促進を図ります。

また、関係機関が発刊する広報ツール等を活用し、受益地内外への情報発信に努めます。



【品目別生産者部会での散水器具実演会】



【肝属中部地域畑かんだより】



【鹿児島県公式 YouTube チャンネル】

肝属地区の畑かんを活用している若手生産者について配信中。



2 肝属中部地域を支える担い手の育成

新規就農者の育成・定着を図るとともに、認定農業者等への規模拡大や法人化を推進し、経営の発展段階に応じた支援を行い、肝属中部地域畑かん営農を支える担い手を育成します。

また、国内外の情勢による燃油等生産資材の価格動向に対応した補助制度等の活用を推進するとともに、関係機関・団体が一体となって地域計画へ参画し、農地バンクと連携した、農地の集積・集約化を推進するなど担い手の経営安定を支援します。

3 畑かんを活用した多様な産地の育成

推進品目毎の水利用の方向性や推進方策の普及に務め、生産性や収益性の高い農業の実現に向けた営農体系の取組を支援します。

また、基幹作物であるさつまいもについては、収穫用ハーベスタ等の作業機械を共用できる加工用ばれいしょなど、露地野菜との輪作体系の確立を推進します。

さらに、販路確保のため、消費地や流通・加工部門の動向等について情報共有を図るとともに、業務加工用野菜の契約取引の拡大や、実需者のニーズに合わせた産地育成を推進します。



1 畑かん営農への理解促進

(1) 畑かんに対する理解促進

- ① 事業の進捗状況などの情報提供
- ② 散水方法の紹介及び実演
- ③ 畑かんマイスターの育成

(2) 水利用効果の周知・普及促進

- ① 畑かんマイスターと連携した水利用効果の周知・普及
- ② 水利用の展示ほの設置（見える展示ほ）
- ③ その他水利用促進に向けた方策の検討

2 肝属中部地域を支える担い手の育成

(1) 認定農業者等の経営発展に向けた取組に対する支援

- ① 戸別訪問による経営動向確認及び水利用への誘導
- ② かん水の自動化等のスマート農業技術の活用による省力化・効率化の推進
- ③ 地域計画や農地貸出希望地を把握しての集積のための情報提供

(2) 大規模経営体（法人経営）の規模拡大の取組に対する支援

- ① 大規模化に向けた経営計画の作成支援
- ② 地域計画を踏まえた農地集積・集約化への支援
- ③ 規模拡大に応じた省力化、高品質化技術等の導入促進
- ④ 輸出を見据えた実需動向の把握と安定供給体制構築のための支援

(3) 推進する経営体モデル

- ① 本地域で特徴的な経営体をベースに水利用による安定的な生産と収益性の向上を目指す
- ② さつまいも及び露地野菜の土地利用型経営については、個人で6ha、法人で30haの経営規模（実面積）で整理

営農類型	形態	経営規模	農家育成の考え方	
さつまいも＋ 露地野菜	個人	さつまいも 4ha ごぼう 2ha にんじん 2ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による品質と単収の向上 ・作業機械の共用化による輪作体系の推進 ・地域計画や農地バンクと連携した農地の集約化 ・畑かんやスマート農業を活用した省力化 ・経営段階に応じた経営計画の作成支援 	
		さつまいも 4ha ごぼう 2ha ばれいしょ 2ha		
		さつまいも 5ha 根深ねぎ 2ha		
		さつまいも 30ha だいこん 15ha		
	法人	さつまいも 20ha ごぼう 5ha にんじん 6ha だいこん 4ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による品質と単収の向上 ・加工・業務用契約による安定的収入の確保 ・大型農業機械の導入や既存機械汎用化 ・地域計画や農地バンクと連携した農地の集約化 ・畑かんやスマート農業を活用した省力化 ・安定的雇用の確保 	
		さつまいも 25ha かぼちゃ 2ha ばれいしょ 4ha		
		ブロッコリー 4ha キャベツ 2ha かぼちゃ 3ha		<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による品質と単収の向上 ・作業機械の共用化による輪作体系の推進 ・地域計画や農地バンクと連携した農地の集約化 ・畑かんやスマート農業を活用した省力化 ・経営段階に応じた経営計画の作成支援
		にんじん 25ha ごぼう 10ha		
施設野菜専作	個人	ピーマン 0.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量品質の向上 ・研修機関と連携した新規就農者の確保 ・環境制御装置を活用した生産性の向上 ・温度、施肥管理による品質単収向上 ・保温対策の徹底による燃油使用量削減 	
	法人	ピーマン 1ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量品質の向上 ・ICTを活用した高収益・高品質化 ・作業環境の整備による雇用の確保 	
茶専作	個人	茶 15ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量品質の向上 ・畑かんを利用した防霜・防除技術の推進 ・優良品種への改植 	
肉用牛	個人 (繁殖)	繁殖牛 60頭 飼料作物 6ha	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料収穫作業の共同化によるコスト低減 ・水利用による発芽促進及び多収穫化 ・スマート畜産技術の活用による効率的な生産 	
	法人 (繁殖)	繁殖牛 300頭 飼料作物 30ha		

3 畑かんを活用した多様な産地の育成






(1) 推進品目の選定・推進

- ・水利用効果が高い
- ・収益性が高い
- ・農地の高度利用が図られる
- ・各生産振興計画での位置づけ
- ・作付け状況，地域の実情

等を考慮し選定した以下の品目を「推進品目」として位置づけ，水利用を推進していく。

部門名	推進品目名
さつまいも	青果用，加工用，でん粉用，焼酎用
野菜	ごぼう，ばれいしょ，だいこん，にんじん，ブロッコリー，かぼちゃ，ねぎ，キャベツ，さといも，ピーマン，いんげん
花き	テッポウユリ，キク
果樹	マンゴー，不知火，きんかん，パッションフルーツ
茶	茶
飼料作物	飼料作物

【推進品目の推進方策】

分類	品目	推進地域	水利用の方向性と推進方策	振興方向
	さつまいも	全地域	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による適期の作付 ・育苗ほへの水利用 ・防除，除草用補給水としての活用 ・ハーベスタ等農業機械を共通で使える品目の輪作の推進 ・残渣分解促進のための畑かん活用の検討 	
野菜	ごぼう	全地域	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による発芽率の向上 ・輪作や作型分散による面積拡大 ・農作業受委託の推進 ・補助事業等を活用した農業機械の導入支援 	
	ばれいしょ	全地域	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量，品質の向上 ・輪作や作型分散による面積拡大 ・規模拡大志向農家への推進 ・加工野菜導入による契約販売の推進 ・機械化作業体系による省力化 ・農作業受委託の推進 	
	だいこん	鹿屋，肝付	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量，品質の向上 ・作付期の分散による労務の確保 ・輪作や作型分散による面積拡大 ・加工野菜導入による契約販売の推進 ・さつまいも後作への面積拡大 	
	にんじん	全地域		
	ブロッコリー	鹿屋，肝付	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗ほへの水利用 ・水利用による適期の定植 ・水利用による収量，品質の向上 ・加工野菜導入による契約販売の推進 ・安定した雇用の確保 	
	かぼちゃ	吾平，肝付		
	ねぎ	鹿屋		
	キャベツ	肝付		

分類	品目	推進地域	水利用の方向性と推進方策	振興方向
野菜	さといも	鹿屋	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量，品質の向上 ・輪作，さつまいもの代替品目としての推進 	↗
	ピーマン	吾平，肝付	<ul style="list-style-type: none"> ・畑かん利用に水源交代することによる経費削減 ・新規就農者の育成 ・補助事業等を活用した施設・設備の導入支援 ・畑かん受益地への推進 	↗
	いんげん	肝付		→
花き	テッポウリ	鹿屋	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量，品質の向上 ・畑かん利用に水源交代することによる経費削減 ・補助事業等を活用した産地の育成 	→
	キク	鹿屋		
果樹	マンゴー	肝付	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量，品質の向上 ・畑かん利用に水源交代することによる経費削減 ・補助事業等を活用した産地の育成 	→
	不知火	肝付		
	きんかん	肝付		
	パッションフルーツ	肝付		
茶	鹿屋	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による防霜対策及び病虫害防除対策 	→	
飼料作物	全地域	<ul style="list-style-type: none"> ・水利用による収量の向上 ・さつまいもや野菜等を含めた複合経営への誘導 ・サツマイモ基腐病の対策のための輪作推進 	→	

(2) 多様な栽培品目による産地作り

- ① 輪作体系の確立による畑地の高度利用の検討
- ② 販路確保のための消費地や流通加工部門との情報提供や意見交換
- ③ 各JAの品目別生産者部会等への支援



第V章 第2期営農ビジョンの目標

今後の畑かん営農の推進にあたり、下記のとおり目標を設定し、目標達成に向けて関係機関・団体はもとより、受益者と一体となって取り組みます。

1 推進品目の生産目標

(単位：ha, %)

品目名		現状 (R4)	目標 (R15)	目標/現状
さつまいも		※ 597	657	110
野 菜	ごぼう	38	59	155
	ばれいしょ	38	56	147
	だいこん	103	110	107
	にんじん	24	37	154
	ブロッコリー	7	15	214
	かぼちゃ	5	11	220
	ねぎ	8	10	125
	キャベツ	1	4	400
	さといも	5	9	180
	ピーマン	18	23	128
	いんげん	2	3	150
花き		10	10	100
果樹		16	16	100
茶		16	16	100
飼料作物		※ 770	820	106
	(春, 夏)	※ 399	419	105
	(秋, 冬)	※ 371	401	108
合計		1,658	1,856	112

※ サツマイモと飼料作物は3カ年(R2~R4)平均とした。

※ 作付け面積は地籍面積によるため、施設畑等の栽培面積とは異なる。

※ ラウンドの関係で計が一致しない場合がある。

2 さつまいもの後作野菜利用

(単位：ha, %)

さつまいもの 後作野菜利用	現状 (R4)	目標 (R15)	目標/現状
	82	123	150

第Ⅵ章 市町別畑かん営農の将来方向

1 鹿屋市（鹿屋）

本市が策定した「第2次かのや農業・農村戦略ビジョン（令和5年3月）」及び「A鹿児島きもつき「産地づくり10年ビジョン（令和3年9月）」の目標達成に向けて、畑かん水を活用した畑地高度利用を推進していく。

また、畑かん施設の有効活用と、近年、取り組みが進んでいるスマート農業を併用した新たな生産技術や省力化に向けた取組や、国内外の実需動向に応じた生産体制の構築を推進する。

■畑かん受益地における推進品目

部門名	推進品目名
さつまいも	青果用，加工用，でん粉用，焼耐用
野菜	ごぼう，ブロッコリー，ばれいしょ，ねぎ，だいこん，にんじん，サトイモ
花き	テッポウユリ，キク
茶	茶
飼料作物	飼料作物

■畑かんの利用の方向性

さつまいも

夏期の畑作の多くを占めるさつまいもについては、植付後の活着促進や畑かんを使った土壌還元消毒の病害虫対策を行いながら、青果・加工用の「べにはるか」やでん粉用の「こないしん」「みちしずく」などの有望品種の計画的な生産を推進します。

また、近年、サツマイモ基腐病の発生が問題となっており、露地野菜との組み合わせ等による経営安定の支援を行います。

野菜

野菜については、さつまいもの後作として作付が可能な品目の推進による農地の有効活用と面積拡大を進めるとともに、水利用による生産性及び品質の向上を図ります。

また、近年、農業法人を中心に拡大傾向にある一次加工やカット向け品目についても、同様に推進を図ります。

なお、規模拡大志向農家等へは、自走式散水器具の導入によるかん水作業の省力化を支援します。

花き

花きについては、水利用による品種や作型の多様化による生産性の向上を図るとともに、計画的な出荷を支援します。

茶

茶については、散水による防霜対策や害虫発生密度抑制などによる生産性及び品質の向上を図ります。

飼料作物

飼料作物については、積極的な水利用を推進し、収量向上と安定生産による自給率向上を図るとともに栄養価の高い飼料作物の導入も検討します。

■ 推進品目の生産目標

(単位：ha, %)

品 目 名		作 付 面 積		目標／現状
		現状	目標(R15)	
さつまいも		※ 291	320	110
野 菜	ごぼう	29	34	117
	サトイモ	5	9	180
	ブロッコリー	5	5	100
	ばれいしょ	12	15	125
	ねぎ	6	8	133
	だいこん	67	74	110
	にんじん	24	35	146
花 き	テッポウユリ	0.4	0.4	100
	キク	2	2	100
茶		15	15	100
飼料作物		※ 166	177	107

※ さつまいもと飼料作物はサツマイモ基腐病の影響で変動が大きかったため現状値は3カ年平均(R2~R4)とした。

※ 作付け面積は地籍面積によるため、施設畑等の栽培面積とは異なる。

■ 経営体の育成目標 推進する営農類型

営農類型	経営規模	生産方式
さつまいも + 露地野菜	さつまいも 4ha ごぼう 1ha にんじん 1ha	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な肥培管理による品質と単収向上 ・定期的なバイオ苗導入による単収向上 ・土壌病害の徹底防除による品質向上
	さつまいも 3ha ごぼう 1ha ブロッコリー 0.5ha	
	さつまいも 2ha 根深ねぎ 1.5ha	
	さつまいも 10ha だいこん 14ha	
花き専作	スプレーギク 0.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・周年栽培体系の確立(3回転/年) ・優良品種の導入 ・温度・施肥管理による秀品率と採花本数の向上 ・保温対策の徹底等による燃油使用料削減
茶専作	茶 10ha	<ul style="list-style-type: none"> ・防霜施設の整備 ・優良品種への改植
肉用牛 + 野菜複合	生産牛・育成牛13頭 さつまいも 1.4ha ごぼう 0.6ha 水稻 0.5ha ばれいしょ 1.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・生産牛の更新は自家育成(更新率20%) ・子牛の哺乳は手作業による人工哺乳 ・せり市出荷 8~9か月齢 ・定期的なバイオ苗導入による品質向上 ・土壌病害の徹底防除による品質向上 ・品種、作型の組み合わせによる周年供給 ・ごぼうは、深耕と掘り取り作業運搬は委託 ・生産率は95%以上を確保 ・水稻は、全面作業委託
(法人) さつまいも + 露地野菜	さつまいも 14ha ごぼう 6ha にんじん 6ha だいこん 4ha	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な肥培管理による品質と単収向上 ・定期的なバイオ苗導入による単収向上 ・土壌病害の徹底防除による品質向上

2 鹿屋市（吾平町）

本市が令和5年3月に策定した「第2次かのや農業・農村戦略ビジョン」及び「A肝付吾平町が令和3年10月に策定した「産地づくり10年ビジョン」の目標達成に向けて、畑かん水を利用した畑地の高度利用を推進していく。

また、畑かん施設の有効活用と、スマート農業を併用した新たな生産技術や省力化に向けた取組に加えて、国内外の実需動向に応じた生産体制の構築を推進する。

■畑かん受益地における推進品目

部 門 名	推 進 品 目 名
さつまいも	でん粉用，焼耐用，加工用，青果用
野 菜	かぼちゃ，サラダごぼう，ピーマン，なす，ばれいしょ
飼料作物	飼料作物

■畑かんの利用の方向性

さつまいも

夏期の畑作の多くを占めるさつまいもについては、植付後の活着促進や畑かんを使った土壌還元消毒の病害虫対策を行いながら、有望品種の計画的な生産を推進します。

また、露地野菜との組み合わせによる経営規模拡大への支援を行います。

一方で、さつまいも特有の病害対策が課題となっており、露地野菜との組み合わせ等による経営安定の支援を行います。

野 菜

露地野菜については、さつまいもとの輪作が可能な「かぼちゃ」「サラダごぼう」「ばれいしょ」の推進による、農地の有効活用と面積拡大を進めるとともに、水利用による生産性の向上を図り、計画的な生産や出荷が可能な産地育成を図ります。

また、荒瀬ダムの本格通水（H30）により散水器具の導入等を支援し、かん水作業の省力化を支援します。

施設野菜については、新規就農者の確保を図りながら、かごしまブランド産品である「ピーマン」の規模拡大、かごしまの農林水産物認証品目である「なす」の産地維持を図るとともに、水利用による生産性の向上を図ります。

また、流通加工事業者等と連携し、「加工用ばれいしょ」「加工用かぼちゃ」の面積拡大の支援を行います。

飼料作物

飼料作物については、積極的な水利用を推進し、収量向上と安定生産による自給率向上を図るとともに栄養価の高い飼料作物の導入も検討します。

■ 推進品目の生産目標（作付面積目標）

（単位：ha，％）

部門名		現状(R4)	目標(R15)	目標／現状
さつまいも		※ 131	144	110
野菜	かぼちゃ	2	2	100
	ごぼう	8	20	250
	ピーマン	10	13	130
	なす	1	1	100
	ばれいしょ	21	26	124
飼料作物		※ 165	177	107

※ さつまいもと飼料作物はサツマイモ基腐病の影響で変動が大きかったため現状値は3カ年平均（R2～R4）とした。

※ 作付け面積は地籍面積によるため、施設畑等の栽培面積とは異なる。

■ 経営体の育成目標 推進する営農類型

営農累計	経営規模	生産方式
さつまいも＋ 露地野菜	さつまいも 4ha ごぼう 1ha	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な肥培管理による品質と単収向上 ・定期的なバイオ苗導入による単収向上 ・土壌病害の徹底防除による品質向上
	さつまいも 3ha サラダごぼう 0.6ha 加工用ばれいしょ 1.3ha	
施設野菜専作	ピーマン 0.25ha	<ul style="list-style-type: none"> ・環境制御装置を活用した生産性の向上 ・温度、施肥管理による品質単収向上 ・保温対策の徹底による燃油使用量削減
	なす 0.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な肥培管理による品質と単収向上 ・保温対策の徹底による燃油使用量削減
肉用牛＋ 野菜複合	生産牛・育成牛18頭 さつまいも 3ha サラダごぼう 0.3ha 水稻 0.5ha 加工用かぼちゃ 0.5ha	<ul style="list-style-type: none"> ・生産牛の更新は自家育成・子牛の哺乳は手作業による人工哺乳（更新率20％） ・せり市出荷（8～9か月齢） ・定期的なバイオ苗導入による品質向上 ・土壌病害の徹底防除による品質向上 ・品種、作型の組合せによる周年供給 ・サラダごぼうにおいては、深耕と掘り取り作業運搬は委託 ・水稻は、全面作業委託
（法人） 露地野菜	さつまいも 30ha ばれいしょ 5ha だいこん 6ha	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な肥培管理による品質と単収向上 ・定期的なバイオ苗導入による単収向上 ・土壌病害の徹底防除による品質向上

3 肝付町

畑かん施設を有効活用し収益性の高い農業を展開，確立するため関係機関で連携し推進を図る。畑かん地区内への新規就農を積極的に推進し将来の担い手として育成する。また町が推進するスマート農業を有効的に活用することにより省力化を図り，大規模農家及び地域の担い手の耕作面積拡大を推進し，一定規模以上の経営体を農業法人へと育成する。

■畑かん受益地における推進品目

部門名	推進品目名
さつまいも	青果用，加工用，でん粉用，焼酎用
野菜	さやいんげん，ジャンボインゲン，ピーマン（カラーを含む），にんじん，だいこん，ばれいしょ，ブロッコリー，キャベツ，かぼちゃ
果樹	マンゴー，不知火，キンカン，パッションフルーツ
その他	落花生
飼料作物	飼料作物

■畑かんの利用の方向性

さつまいも

夏期の畑作の多くを占めるさつまいもについては，水利用による良質苗の確保や植付後の活着促進などによる，計画的な生産を推進します。

また、近年病害虫の発生が問題となっており、露地野菜との組み合わせ等による経営安定の支援を行います。

野菜

ピーマン(カラー含む)については，水利用による生産性及び品質の向上を図るとともに，補助事業や研修等事業などの施策活用による産地育成を支援します。

露地野菜については，加工野菜の需要に合わせて推進を行い，水利用による安定的な収量の確保及び品質の向上を図ります。

また，規模拡大志向農家へは散水器具の導入によるかん水作業の省力化を支援します。

果樹

果樹については，水利用による生産性及び品質の向上を図るとともに，補助事業を活用した産地育成を図ります。

その他

落花生については，水利用による実証成果を踏まえ，面積拡大を図ります。

飼料作物

飼料作物については，水利用による高品質で低コストな自給粗飼料の確保を図るとともに，は種時の干ばつや水不足による生育不良時での水利用が必要とされることから，大型散水機械の導入を支援します。

■ 推進品目の生産目標

(単位：ha, %)

品 目 名		作 付 面 積		目 標 / 現 状
		現 状	目 標 (R15)	
さつまいも		※ 175	193	110
野 菜	いんげん	2	3	150
	ピーマン	8	10	125
	にんじん		2	皆増
	ばれいしょ	5	15	300
	ごぼう	0.4	5	1250
	だいこん	17	17	100
	ブロッコリー	2	10	500
	キャベツ	0.6	4	667
	かぼちゃ		6	皆増
果 樹	マンゴー	0.6	4	667
	不知火		6	皆増
	キンカン	0.6	4	667
	パッションフルーツ		6	皆増
そ の 他	落花生	11	12	109
飼料作物		※ 362	385	106
計		584	667	114

※ さつまいもと飼料作物はサツマイモ基腐病の影響で変動が大きかったため現状値は3カ年平均(R2~R4)とした。

※ 作付け面積は地籍面積によるため、施設畑等の栽培面積とは異なる。

■ 経営体の育成目標 推進する営農類型

営農類型	経営規模	生産方式
さつまいも + 露地野菜	さつまいも 4ha ごぼう 1ha にんじん 0.5ha キャベツ 0.5ha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な肥培管理による品質単収の向上 ・ 定期的なバイオ苗導入による品質向上(さつまいも) ・ 土壌病害の徹底防除による品質向上(さつまいも)
	さつまいも 3ha ごぼう 1ha ばれいしょ 1ha ブロッコリー 0.5ha	
	ブロッコリー 5ha きゃべつ 2ha かぼちゃ 3ha	
	ピーマン 0.2ha	
肉用牛 + 野菜複合	生産牛・育成牛30頭 さつまいも 3ha 若掘ごぼう 0.3ha 水稻 0.5ha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自家良質堆肥施用による土づくり ・ 早期水稻、さつまいも、露地野菜との輪作体系確立 ・ 適正な肥培管理による品質単収の向上 ・ 定期的なバイオ苗導入による品質向上(さつまいも) ・ 土壌病害の徹底防除による品質向上(さつまいも)
(法人) さつまいも 専作	さつまいも 25ha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的なバイオ苗導入による品質向上 ・ 土壌病害の徹底防除による品質向上 ・ さつまいもの後作については、他法人による大根及び飼料作物の作付けによる輪作

発行者 肝属中部地域畑地かんがい営農推進本部

(事務局 鹿児島県大隅地域振興局農林水産部農政普及課)

